

滋賀^の・野路岡田遺跡^{じおかだ}

- 1 所在地 滋賀県草津市野路町字岡田
- 2 調査期間 一九八〇年(昭五五)四月～十二月
- 3 発掘機関 草津市教育委員会
- 4 調査担当者 別所健二(草津市教育委員会社会教育課)
- 5 遺跡の種類 集落跡(野路宿跡か)
- 6 遺跡の年代 平安時代末～鎌倉時代前期
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

野路岡田遺跡は、草津市東南部に広がる古期湖成段丘の先端に位置するが、その立地は古代以来の東山道・東海道および馬道と今も称され、中世以来の要港、矢橋港へ至る古道等が隣接・交錯する交通上の要衝と考えられる。事実、本遺跡の性格については、これまで岡田という字名も一因して、延喜式にその名を留める岡田駅の所在地ではないかという考察もされてきたのである。

発掘調査は、特別養護老人ホームの建設に先立ち、東西四〇〇m・南北三〇〇mと推定される本遺跡の北部域で実施されたものである。

その結果、発掘区域全面から二四棟を数える掘立柱建物跡をはじめとして、井戸跡五基・築地状遺構一列のほか、土壙・溝状遺構・

柵列等多数の遺構が発見された。これらのうち、掘立柱建物跡については、径六〇cm前後の比較的大きい掘形を有するC類五棟を除いては、先に記した馬道と称する古道及び築地状遺構と平行軸を保持しており注目されるほか、二間×八間又は五間という長棟式の建物跡が三棟見られ、後に記す出土土器内容とともに、畿内周辺部の中世村落として特異な構成を呈している。なお、木簡の出土を見たのは、調査区北西隅で検出した直径5m余の井戸跡の下層からであり、上層からは瓦器・土師器ほかの中世土器が大量に出土した。

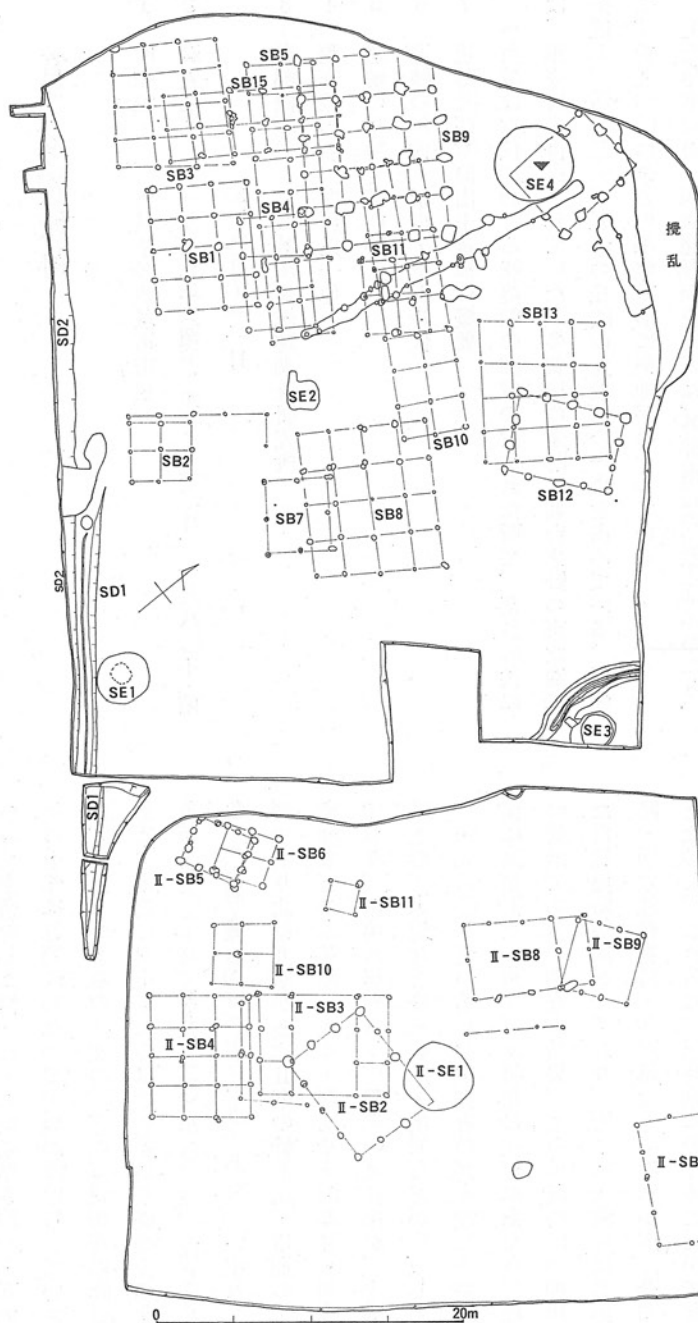
これらの遺構及び包含層からの出土遺物には、先に記した瓦器・土師器・中世須恵器・青磁・白磁・灰釉・緑釉・黒色土器等多彩な中世土器が認められるほか、素弁八葉蓮華文の軒丸瓦・平瓦ならびに風字硯・小刀・砥石、井戸枠・曲物・水桶・杓・下駄・箸・木簡等の木製品に至るまで多種類なものにのぼっている。



(京都東南部・京都東北部)

このうち出土土器の大半は瓦器と土師器であり、それも瓦器碗と土師皿という二大構成が認められる。県下

1980年出土の木簡



野路岡田遺跡遺構配置図

別所健二他
「野路岡田
遺跡中間報
告」(滋賀
文化財だより
No. 37 財団
法人滋賀県文
化財保護協
会)
一九八〇年
金田章裕
「中世の交
通」(草津市
史第一巻 草
津市役所)
一九八一年
(別所健二)

8 木簡の釈文・内容
の平安時代後期～鎌倉時代における集落跡では、黒色土器碗と土師
皿が出土土器の主要器種となるのが一般的であり、この点において
も本遺跡の都市的性格が垣間見えるのである。

9 関係文献
用途不明の木製品を転用したものか。上部右側に墨痕が認めら
れる。左側端は欠損している。
294×(88)×9 0665